分科会名

**別紙①　分科会レポートフォーマット**

リハビリ分科会

**『高齢者住宅におけるリハビリの提供』**

高齢者住宅におけるリハビリについて、健康寿命を延ばし、生き甲斐を見出し日々の生活レベルを維持する為、リハビリを苦痛なく継続的に続けられるように様々な観点から新たな技術を取り入れ多岐にわたるリハビリとして将来を見据え「高齢者住宅におけるリハビリの提供」を提言します。

年齢・介護度による見合ったリハビリ

介護度1～3の方は自主的に歩いて頂く機会を作る

介護度4以上の方の歩行をどうするか？ロボットの活用で可能に

1.ヨガのリハビリへの活用

（1）歩行・失禁・排便のヨガ教室

　歩行ができる→転倒がなくなる→オムツが取れる→介護職員の負担軽減→ゴミ削減

→環境への配慮

1. 歩行ができる事で、自信が生まれ外出が可能に

➁　自主的にトイレに行く事が出来、オムツ離れに繋がる

（2）ルーシーダットンの活用：「自己整体」タイに古くから伝わる健康法（尿漏れ防止等）

呼吸/血行を即す

2.記憶力を増大させるリハビリ

（1）筋肉から分泌されるマイオカイン『50有る物質の総称』が海馬に働く為、脳の活性化に繋がる。マイオカイン中のカテプシンBと言う物質が記憶力を増大させる。

（2）筋肉を動かし増強する⇒マイオカインの増加

3.仕掛け学の活用で楽しく

(1)　例）大阪大学、松村真宏先生の消毒の仕掛け

　天王寺動物園でライオン像の口が開いているので手を入れると消毒液が出て消毒する人が増えたとの報告。

　（2）階段の各段にセンサーが取り付けられ人が通ると1台毎反応して音が出てメロディーを　奏でる

4.リハビリを維持する方法

（1）ロボットの活用⇒規定を無くし普及促進（人件費との兼ね合い）

（2）リアルとバーチャルを組み合わせた方法

　VRで富士通の仮想空間の物を想定

5.健康管理データー（バイタル・健診データー入力）　　医療用プログラムデーターとの共有

　未病管理

1. 生命保険会社が考える今後の対応策
2. 介護保険の今後
3. コールセンターから見えて来る物

※12月2日ライフケアパートナーズ矢野社長様からお話を頂いた。